

事業計画書目次

[みどり環境局]

9款 2項 2目

(単位：千円)

計画 書頁	事業名	令和7年度		令和6年度		増△減（7－6）		新規・ 拡充
		事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	
1	横浜市立動物園管理運営事業	2,415,706	2,309,683	2,362,497	2,252,831	53,209	56,852	
2	動物収集事業	29,452	5,452	14,452	5,452	15,000	0	
3	繁殖センター管理運営費	64,693	64,014	61,825	61,123	2,868	2,891	
4	希少動物海外交流事業	1,375	1,375	1,375	1,375	0	0	
5	動物園基金事業	10,200	5,200	20,700	5,200	△ 10,500	0	
	計	2,521,426	2,385,724	2,460,849	2,325,981	60,577	59,743	

令和7年度 事業計画書

事業局課	みどり環境局	動物園課				新規拡充		□ 新規 □ 拡充		事業評価書番号	1
歳出予算科目	一般会計	9	款	2	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	横浜市立動物園管理運営事業										

(単位：千円)

区 分	金 額	財 源 内 訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	2,415,706	0	1,600	104,423	0	2,309,683
令和6年度	2,362,497	0	1,600	108,066	0	2,252,831
増▲減	53,209	0	0	▲3,643	0	56,852

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
予 算	事業費	2,303,260	2,371,783	2,372,692	2,372,692	2,372,692
	市債＋一般財源	2,200,753	2,267,967	2,266,669	2,266,669	2,266,669
決 算	事業費	2,367,188	2,368,423			
	市債＋一般財源	2,260,325	2,260,992			

事業概要 (アクティビティ)		よこはま動物園ズーラシア、野毛山動物園、金沢動物園、野毛山公園（動物園を除く。）及び金沢自然公園（動物園を除く。）を指定管理者（（公財）横浜市緑の協会）が一体的に管理運営することにより、来園者サービスの向上を図ります。							
事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
3園入園者数	単位	目標	228	228	228	228	228	228	228
	万人	実績	183.2	175.2					
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
来園者アンケートにおける満足度	単位	目標	一	98	98	98	98	98	98
	%	実績	98	98					
事業目的		横浜市立動物園は、都市公園法に基づく公共の福祉の増進に資するため設置された施設であり、博物館法に基づく教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に設置された博物館相当の施設です。 生物多様性保全の重要性を人々に伝える自然との架け橋としての役割を担うとともに、動物たちを知り動物たちから感動を得ながら、いのちの大切さを学ぶ場を提供し、生きものと共生する文化の構築に貢献します。							
背景・課題		動物園の管理運営のうえで必要となってくる光熱費・飼育費等の価格高騰が課題となっている。							
根拠法令・方針決裁等		横浜市動物園条例、横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱、横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会要綱、横浜市動物園等の指定管理者の評価に関する要領							
根拠・データ等		・平成18～22年度は、指定管理者として（公財）横浜市緑の協会がよこはま動物園ズーラシアの運営。 ・平成19年度までは、市が野毛山動物園と金沢動物園を運営。 ・平成20～22年度は、野毛山動物園と金沢動物園を指定管理者制度に移行し、3園一体管理に移行。 ※指定管理者：（公財）横浜市緑の協会 ・平成23～27年度は、引き続き3園一体管理で運営（第2期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会） ・平成23～24年度に、外部委員会による動物園にふさわしい運営体制の検討の実施。 ・平成25年4月に、よこはま動物園ズーラシア「アフリカのサバンナ」を一部開園、平成27年4月に全面開園。 ・平成28年4月に、金沢動物園「オセアニア区」リニューアルオープン。 ・平成28～令和7年度は、引き続き3園一体管理で運営（第3期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会）							
事業スケジュール		3動物園にかかる下記業務 ・管理運営にかかる業務（通年） ・指定管理選定業務（～3月） ・種保存会議開催支援業務（～12月） ・その他連絡調整（通年）							
事業開始年度		平成20年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
	1	横浜市立動物園管理運営事業	2,415,706	2,362,497	53,209	種の保存会議開催に伴う負担金の増
	細事業合計		2,415,706	2,362,497	53,209	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	白井 智廣	関 美有希	石井 俊平

令和7年度 事業計画書

事業局課	みどり環境局	動物園課				新規拡充		☐ 新規 ☐ 拡充		事業評価書番号	2
歳出予算科目	一般会計	9	款	2	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	動物収集事業										

(単位：千円)

区 分	金 額	財 源 内 訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	29,452	0	0	24,000	0	5,452
令和6年度	14,452	0	0	9,000	0	5,452
増▲減	15,000	0	0	15,000	0	0

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
予 算	事業費	10,315	14,574	29,452	29,452	29,452
	市債＋一般財源	5,315	5,574	5,452	5,452	5,452
決 算	事業費	10,462	12,481			
	市債＋一般財源	5,568	6,285			

事業概要 (アクティビティ)		横浜市立の3動物園の動物展示の維持及び種の保存に必要な血統更新のために、種の保全推進員会で承認された保全収集計画に基づき、国内外の政府、自治体、動物園等と連携しての新規個体の収集と輸送を行います。さらに、計画推進に必要な情報交換・収集、計画の調整、生息地調査や技術習得などを促進し、動物園の魅力アップと種の保全事業を推進します。							
事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
動物収集実績	単位	目標	10	10	10	10	10	10	10
	件	実績	10	10					
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
種の保全及び展示種数維持されたことによる本市動物園の価値向上	単位	目標	前年度比90%以内の維持(206種)	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持
	%	実績	100%	100%					
事業目的		動物の収集を通じて動物園の魅力アップと種の保全事業の推進、市民への環境教育の場の提供を図るだけではなく、本市が進める「横浜市環境管理計画」の推進に貢献することでもあります。							
背景・課題		国際的な希少動物の保全をするうえで重要な海外との協力関係の構築が、コロナ禍等の影響で滞っています。さらに、欧米を中心とした飼育動物の「アニマルウェルフェア（動物福祉）」の基準の厳格化により、従来の飼育環境では海外からの動物収集が困難となりつつあり、飼育環境の改善が必要とされています。また、物価高騰による委託費等の上昇、国際情勢等の影響による燃料費等の高騰、加えて円安による航空運賃その他の費用が増大しています。							
根拠法令・方針決裁等		種の保存法、博物館法、動愛法、横浜市動物管理要綱、種の保全のための繁殖、展示及び収集等の計画に関する取扱要領等							
根拠・データ等		《動物搬出入実績（主なもの）》 5年度：インドライオン（シンガポール）、その他 6年度（予定）：オオアフリクイ（南米）、ユーラシアカワウソ（ポーランド） 《調整・調査実績》 5年度：WAZA総会（米国・サンディエゴ）、SEAZA総会（マレーシア）、ニホンライチョウ学習会（富山）等 6年度（予定）：WAZA総会（オーストラリア：シドニー）、SEAZA総会（台湾）、インド：動物導入調整 等							
事業スケジュール		1 動物の補充・交換は、保全収集計画に基づき相手方との調整がつき次第実施します。 2 海外との収集活動は動物園組織の年次会議などに積極的に参加し、具体的な協議を進めます。 3 国内希少種の保全に関する政府及び関連団体等との情報交換や生息地の調査への参加を推進し、動物収集と保全活動への参画を推進します。							
事業開始年度		随時継続							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引（増減）	増減説明
	1	情報収集事業	1,652	1,652	0	
	2	動物収集事業	27,800	12,800	15,000	
	細事業合計		29,452	14,452	15,000	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	白井 智廣	五十嵐 隆	森角 興起

令和7年度 事業計画書

事業局課	みどり環境局	動物園課				新規拡充		□ 新規 □ 拡充		事業評価書番号	3
歳出予算科目	一般会計	9	款	2	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	繁殖センター管理運営費										

(単位：千円)

区 分	金 額	財 源 内 訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	64,693	0	0	679	0	64,014
令和6年度	61,825	0	0	702	0	61,123
増▲減	2,868	0	0	▲23	0	2,891

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度		令和9年度	令和10年度
予 算	事業費	53,892	56,821	64,693		64,693	64,693
	市債＋一般財源	53,304	56,133	64,014		64,014	64,014
決 算	事業費	53,326	51,025				
	市債＋一般財源	52,802	50,494				

事業概要 (アクティビティ)		繁殖センターにおいて、国際的に絶滅の危機に瀕する動物や、日本産および市内産の希少動物の保全・繁殖に取り組みます。また、繁殖センターでは3動物園での展示による普及効果と平行しながら、一般展示とは隔離した場所で動物福祉に配慮し、できるだけストレスを与えない落ち着いた環境の確保を図り、繁殖、遺伝子等の調査研究を専門的に行っています。							
事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
繁殖動物	単位	目標	5	5	5	5	5	5	5
	種	実績	5	4					
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
希少動物種の保存 共同研究	単位	目標	15	15	15	15	15	15	15
	件	実績	15	16					
事業目的		【事業目的】 繁殖センターは、平成11年の開所以来、国内動物園初の非公開繁殖研究専門施設として、飼育動物の繁殖メカニズムの解明やDNA解析による雌雄判別技術の開発など、本市動物園の「種の保存事業」を支える事を目的に事業を進めてきました。また、遺伝資源保存の分野では、これまでに54種の配偶子凍結保存を行い、将来の研究や種の保存に貢献するとともに（公社）日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。 特に近年では、日本産希少動物保全事業において、ニホンライチョウの飼育繁殖技術確立および繁殖研究を推進するとともに、ミゾゴイおよびツシマヤマネコの繁殖研究や横浜市産希少種（カエル類）の飼育および研究を日本動物園水族館協会等と連携して推進しています。一方で、横浜市立動物園や日本動物園水族館協会および大学等と連携し、希少動物の人工繁殖および遺伝資源保存研究も進めています。 【事業効果】 種の保存研究事業については、その研究成果により当センターで飼育する希少動物及び横浜市立動物園の飼育動物の繁殖に貢献するとともに、平成25年度からは日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。また、特別公開や夏の科学スクール、大学等の講義対応や一般市民向けの見学ツアー、SNSでの情報発信など、市民に対して事業への理解と関心を深める取り組みを随時行ってきました。日本産希少動物保全事業については平成25年度から導入したスパーバルライチョウやミゾゴイの繁殖に成功するとともに、横浜市産のカエル類の飼育繁殖および生息域内での調査研究を実施しています。更に平成30年度から新たにニホンライチョウの飼育および人工授精に取り組み、令和6年度には野外雄による人工授精に成功しています。加えて、令和3年度以降市内産希少種のツチガエルやミゾゴイの試験放野も開始しています。また、希少種オガサワラカワラヒワの保全のための知見を得る目的で近縁種である普通種カワラヒワの飼育繁殖の取り組みも始め、令和4年度には当センターとして初めての繁殖に成功しています。							
背景・課題		施設開所から20年以上経過し、飼育動物の高齢化および施設内の備品および施設の劣化が著しいことから、引き続き動物の血統更新並びに施設改修、設備更新を計画的に行い、安定的な事業継続を図る必要があります。							
根拠法令・方針決裁等		横浜市繁殖センター規定 配偶子バンク等事業に関する協定書 平成24年12月方針決裁							
根拠・データ等		【飼育動物】 ・マレーバク：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ・カンムリシロムク：IUCNレッドリストCR（近絶滅種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ・ホオアカトキ：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ・ニホンライチョウ：環境省レッドリスト絶滅危惧IB類（EN）、特別天然記念物、環境省希少動物保護増殖事業対象種 ・カグー：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表 ・コンゴクジャク：IUCNレッドリストVU（危急種）、EEP（欧州絶滅危惧種計画）対象種 ・ミゾゴイ：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）							
事業スケジュール		令和7年 4月 春季特別公開 8月 科学スクール開催 7～9月 希少動物飼育下繁殖関連会議出席 10月 秋季特別公開 12月 動物園技術者研究会出席 令和8年 3月 動物輸送							
事業開始年度		平成11年度							

(単位：千円)

	細事業名称	7年度	6年度	差引（増減）	増減説明
--	-------	-----	-----	--------	------

細事業(事業内訳)	1	希少動物種の保存研究事業費	4,188	4,406	▲218	実績に基づく減
	2	繁殖センター管理運営費	60,505	57,419	3,086	主に実績に基づく減
	細事業合計		64,693	61,825	2,868	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、 公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	白井 智廣	尾形 光昭	桐生 大輔

令和7年度 事業計画書

事業局課	みどり環境局	動物園課				新規拡充		☐ 新規 ☐ 拡充		事業評価書番号	4
歳出予算科目	一般会計	9	款	2	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	希少動物海外交流事業										

(単位：千円)

区 分	金 額	財 源 内 訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	1,375	0	0	0	0	1,375
令和6年度	1,375	0	0	0	0	1,375
増▲減	0	0	0	0	0	0

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度		令和9年度	令和10年度
予算	事業費	75	1,525	1,375		1,375	1,375
	市債＋一般財源	75	1,075	1,375		1,375	1,375
決算	事業費	118	27				
	市債＋一般財源	118	27				

事業概要 (アクティビティ)		繁殖センターは、開所以来、海外の希少動物について現地政府との間で、生息域内保全活動の一環として、共同研究や動物交換などを通じた海外交流を行っています。							
事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
動物交換	単位	目標	1	1	1	1	1	1	1
	件	実績	0	0					
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
海外交流による本市動物園の価値向上	単位	目標	1	1	1	1	1	1	1
	動物導入件数	実績	0	0					
事業目的		1 ニューカレドニア希少動物研究交流事業 市制100周年を契機としてはじまり、ニューカレドニア南部州政府との海外交流事業として、特に固有種である希少鳥カグーの生息域内・域外保全を目的として、共同学術研究や動物交換を行っています。当センターでの飼育繁殖で得られた研究成果は現地のカグーをはじめとする希少動物の生息域内・域外保全活動に役立てられています。 2 カンムリシロムク野生復帰事業（インドネシアとの交流事業） 平成15年度から本市とインドネシア共和国間でバリ島固有の希少鳥であるカンムリシロムクの野生復帰を目的とした事業を開始し、平成16年度からJICA草の根技術協力事業の補助金対象事業として実施してきました（第1期～第4期、3度の事業更新）。現地関係機関により、当センターから送致した個体を元に繁殖させた個体の野生復帰を進めた結果、一度は野外で絶滅したと言われていたカンムリシロムクが、野生下で500羽を数えるまでに生息数が回復しています。							
背景・課題		1 ニューカレドニア希少動物研究交流事業 市制100周年を契機として開始しました。 2 カンムリシロムク野生復帰事業（インドネシアとの交流事業） 平成15年度から本市とインドネシア共和国間でバリ島固有の希少鳥であるカンムリシロムクの野生復帰を目的として開始した事業です。							
根拠法令・方針決裁等		横浜市繁殖センター規定 横浜市とニューカレドニア南部州政府における野生動物に関する合意書 カンムリシロムクの野生復帰に関わる西部バリ国立公園と横浜市とカンムリシロムク保護協会の覚書 平成24年12月方針決裁							
根拠・データ等		【ニューカレドニアとの動物交換実績】 令和4年1月：カグー雌雄各1羽入園、平成31年1月：カンムリシロムク雌雄各3羽、オウギバト雌雄各1羽出園 平成23年6月：カグー雌2羽入園、平成22年3月：カグー雌雄各1羽、オオミカドバト雌雄各1羽入園 【カンムリシロムクのインドネシア送致実績】 平成30年11月：15羽 平成28年3月：20羽 平成25年3月：25羽 平成22年11月：30羽 平成20年3月：20羽 平成18年1月：30羽 平成16年6月：20羽 計160羽							
事業スケジュール		令和7年度通年：関係各所との事業調整 令和11年度末：動物交換(ニューカレドニア)							
事業開始年度		平成11年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引（増減）	増減説明
	1	カンムリシロムク野生復帰事業	50	50	0	
	2	ニューカレドニア希少動物研究交流事業	1,325	1,325	0	

	細事業合計	1,375	1,375	0	
本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、 公正・適正に作成しました。		課長 白井 智廣	係長 尾形 光昭	桐生 大輔	

令和7年度 事業計画書

事業局課	みどり環境局	動物園課				新規拡充		☐ 新規 ☐ 拡充		事業評価書番号	6
歳出予算科目	一般会計	9	款	2	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	動物園基金事業										

(単位：千円)

区 分	金 額	財 源 内 訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	10,200	0	0	5,000	0	5,200
令和6年度	20,700	0	0	15,500	0	5,200
増▲減	▲10,500	0	0	▲10,500	0	0

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度		令和9年度	令和10年度
予 算	事業費	10,244	13,220	10,200		10,200	10,200
	市債＋一般財源	5,243	5,219	5,200		5,200	5,200
決 算	事業費	10,072	60,495				
	市債＋一般財源	551	5,114				

事業概要 (アクティビティ)		横浜市へのふるさと納税を基金へ積立し、海外から中大型動物の導入を行う財源とする。							
事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
寄附金の額（年度）	単位	目標	5,000	8,000	15,500	5,000	5,000	5,000	5,000
	千円	実績	13,910	54,880					
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
基金の積み立て額（累計）	単位	目標	51,000	60,000	135,500	140,500	145,500	150,500	155,500
	千円	実績	60,000	120,000					
事業目的		下記背景と課題に対応するため、動物収集を資金的な裏付けの下で着実に行えるよう、動物園に不可欠な動物の収集及びこれに附帯する事業の推進に活用します。							
背景・課題		動物園の4つ役割の一つとして、「種の保存」があることから、生物多様性の保全への国際的な貢献が求められています。これに対応するためには、遺伝的多様性の確保等から国際間での調整が必要であるという背景と課題があります。							
根拠法令・方針決裁等		ワシントン条約（CITES）、地方税法第37条の2、地方自治法第241条、横浜市動物園基金条例							
根拠・データ等		ワシントン条約（CITES）や海外との調整後、中大型動物が導入可能になった際に実施。							
事業スケジュール		寄附金等受納 令和7年4月以降 随時受け入れ後基金へ積立							
事業開始年度		平成29年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引（増減）	増減説明
	1	動物園基金事業	10,200	20,700	▲10,500	個人版ふるさと納税運用見直しによる減
	細事業合計		10,200	20,700	▲10,500	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	石井 俊平
	白井 智廣	関 美有希	